

どんな職業か

紙器には「印刷箱」、「貼箱」、「簡易箱」、「段ボール箱」の4種類があり、これらの紙箱を作るのが紙器製造工である。

まず素材の紙を寸法通り機械で裁断し、箱を展開した形にする。さらに、折り曲げ部分に溝を打ち込み、折り曲げて箱の形にし、糊(のり)で接着するか、針金(ホチキス)で留めて組み立てる。このとき、溝は紙質、形に合わせて溝部分への圧力を調節して、溝の深さを一定に保つ必要がある。糊を使う時は、紙の材質や温度によって糊の粘度を調節する。あらかじめ素材の紙に印刷をしたり(印刷箱)、組み立てられた箱の外側や内側に上質の紙を貼り付けたり(貼箱)する場合もある。この場合、通常は自動貼箱機を使うが、高級品の場合は手作業で行う。

簡易箱は、板紙で箱を展開した生地を作り、折り曲げて接着、または針金留めをして製造する。

段ボール箱は、段ボールシートに印刷してから、折り曲げ、接着または針金留めをして箱に仕上げる。

紙器製造工は分担してこれらの作業を行う。

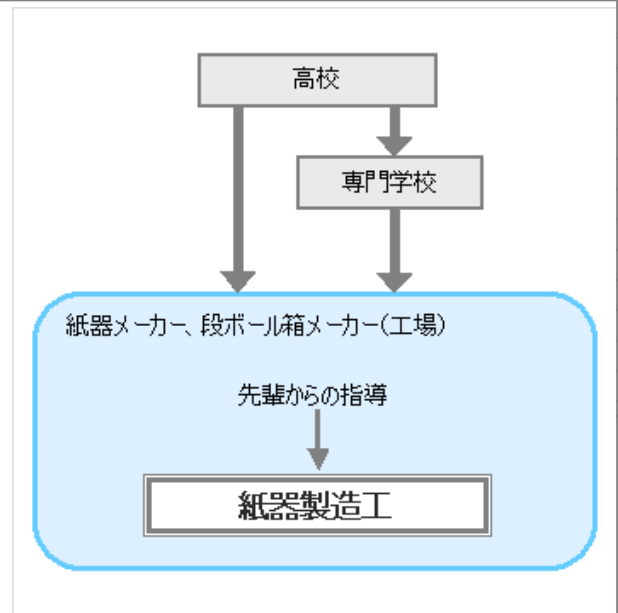
就くには

入職にあたって、特に資格や学歴は必要とされない。新規学卒者の学歴は高卒が一般的である。

入職すると、まず紙器の役割と箱の種類、生産に必要な機械設備などについて指導を受ける。そして断裁作業、打抜き作業の順に覚えていく。打抜き作業で一人前になるには3年程度の経験が必要となる。その後、経験を積んで班長や主任へ昇進していく。また、紙器製造は小資本で参入できる工程があることから、将来、独立することも可能である。

関連する資格として、厚生労働省の技能検定である「紙器・段ボール箱製造技能士」があり、取得すれば昇給や昇進に有利になることがある。

平面からできあがりの立体イメージを想像できる空間判断力、きれいに貼り付けるための手・指先の器用さなどが求められる。

**労働条件の特徴**

職場は都市を中心に全国に渡る。紙器製造業は、従業員10人未満の会社が8割近くを占めており、多くは、印刷箱、貼箱、簡易箱、段ボール箱のそれぞれを専門に製造している。

男女比はほぼ半々で、最近では女性のパートタイマーが増加している。休日は週休2日制の職場が多い。

中元や歳暮で贈答用の箱が必要になる5～6月、10～11月や農作物の出荷時となる3～5月、9～11月は、段ボール箱の需要が増えるため残業が多くなる。

搬送部門の機械化等により、労働需要は多少減少すると見込まれているものの、量としての労働力に大きな変動はないと思われる。

参考情報

関連資格 紙器・段ボール箱製造技能士